

「里見八犬伝 其ノ零」を楽しむ豆知識

エピソード ゼロ

狂言

「狂言」とは、「能」とともに現存する最古の舞台芸術です。この狂言が日本で本格的に登場したのは14世紀ごろで、伝統を守りながら、約600年間演じられてきました。能が悲劇的で幽玄な世界観を持っているのに対し、狂言は冗談や洒落を中心として庶民に笑いを提供するもので、その内容は、当時の権力者や世の中への風刺性をまとめたものが多いという特徴があります。本公演は、そのような伝統的な狂言の姿にのっとり、単に原作の小説を描写するだけでなく、現代的な風刺をも込めた作品となっています。

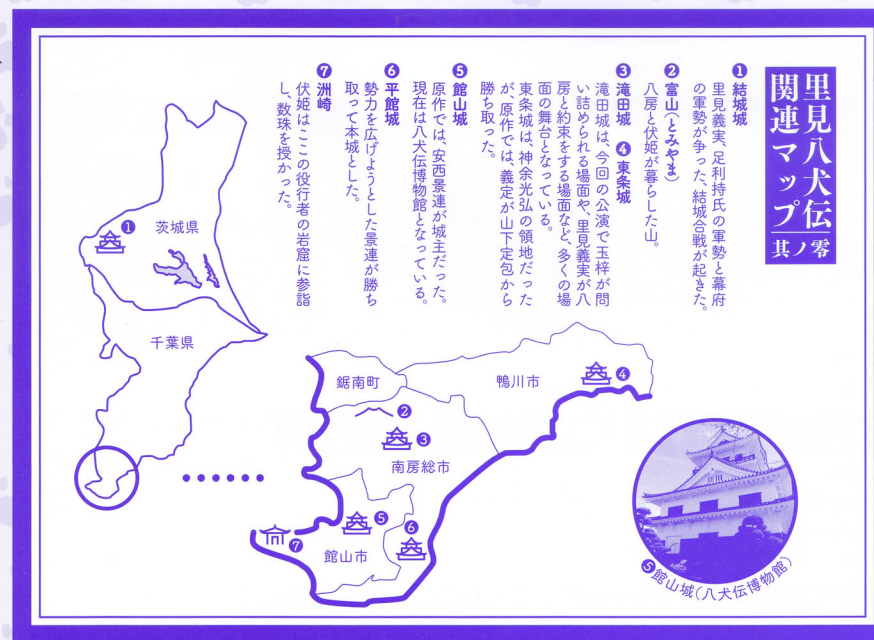
登場人物

- ・里見義実…結城合戦に参加するが、結城落城の際に安房南総に落ち延びる。伏姫の父。飼い犬八房に安西景連討伐を戯言で命じる。
- ・金碗八郎…安房の国主神余光弘の元家臣。金碗大輔の父。光弘の悪政をいさめるが受け入れられず、出奔。その後義実へ仕え、光弘を謀殺して主家に乗った家臣山下定包と、その妻となった玉梓の討伐に加わる。
- ・金碗大輔…八郎の息子。後に、伏姫から八方に飛び散った玉の行方を探し出すために出家。大と名乗る。
- ・安西景連…隣領の館山国主。里見領の飢饉に乗り、攻め滅ぼそうとする。
- ・玉梓…神余光弘の愛妾であったが、家臣である山下定包とも密通。定包によって光弘が謀殺された後、定包の正妻となる。義実によって定包が討伐されると、主君をたぶらかして国を乱した罪を問われ処刑。怨霊となり里見家に仇をなす。
- ・伏姫…義実の娘。3歳まで言葉を発しなかったが、役行者(修験道の開祖とも言われる伝説的な人物)に仁義八行の数珠を与えられてからは健やかに美しく成長。安西景連討伐の恩賞として八房の妻となり、その後ともに安房富山にこもる。
- ・八房…義実の飼犬。体に8つの牡丹の花のようなあざがある。安西景連討伐の恩賞として伏姫を求める。
- ・童子…安房富山にこもっている伏姫のもとに突如現れる、謎の人物。

南総里見八犬伝

『南総里見八犬伝』は、曲亭馬琴が江戸時代後期、文化11年(1814)から天保13年(1842)にかけて28年の歳月を費やして書き上げた、「勸善懲惡(かんぜんちやうあく)・因果応報(いんがおうほう)」をテーマとする超大作です。

室町時代、結城合戦に敗れて安房に逃れた里見義実は、主君神余光弘を謀殺して悪政を行っていた山下定包を討ちますが、処刑した一人である玉梓に呪われます。その後、義実の戯言によって飼い犬八房と結婚した娘の伏姫は、お腹に“八犬士の氣”を宿します。姫の死後、仁・義・礼・智・忠・信・孝・悌の文字のある玉を持つ八犬士たちは別々の地で誕生し、それぞれのかたきやけ物と戦いながら、里見家の元に結集していくのです。



(参考資料)
 梅若猶彦『能楽への招待』(岩波書店 2003年)
 小林貴・監修、油谷光雄・編集『狂言ハンドブック 第3版』(三省堂 2008年)
 曲亭馬琴著・濱田啓介校訂 新潮日本古典集成別巻『南総里見八犬伝』(新潮社 2003年)
 大藤九郎佐宏『図解里見八犬伝』(新紀元社 2008年)
 館山市ホームページ <http://www.city.tateyama.chiba.jp/satomi/contents/contents.html>